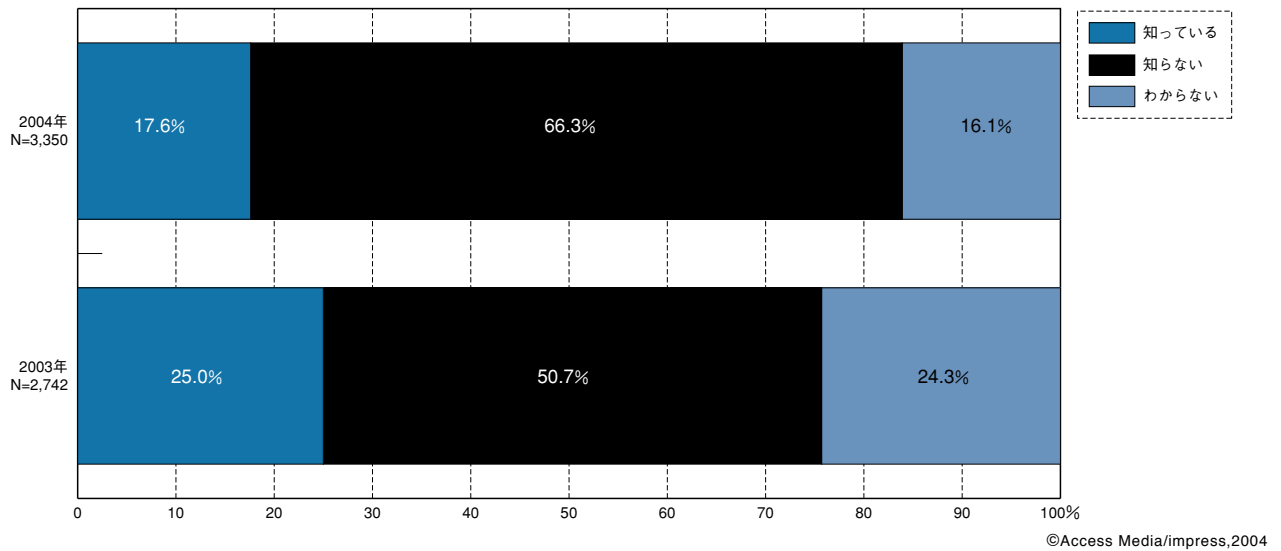


P2P（ファイルシェアリング）

初心者が認知度を下げているP2Pアプリケーション

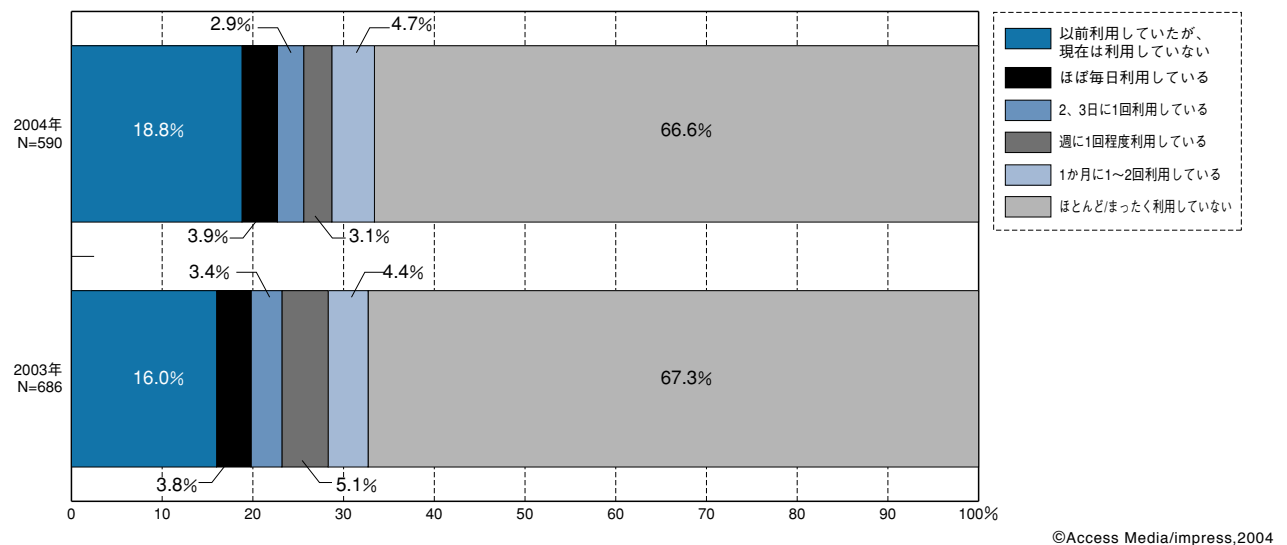
資料2-6-42 P2Pアプリケーションの認知状況（2003年-2004年）



P2Pアプリケーションの認知は17.6%と、前年と比較すると認知状況は低くなっている。これは、インターネット利用者の裾野が広がったぶん、インターネット初心者が「P2Pアプリケーション」を認知していないことに比例する。実際のところ、1年未満のインターネット利用歴の回答者の認知率は3.3%と低い。

P2Pを認知していても、実際に利用しているのはそのうちの4割弱

資料2-6-43 P2Pアプリケーションの利用状況（2003年-2004年）

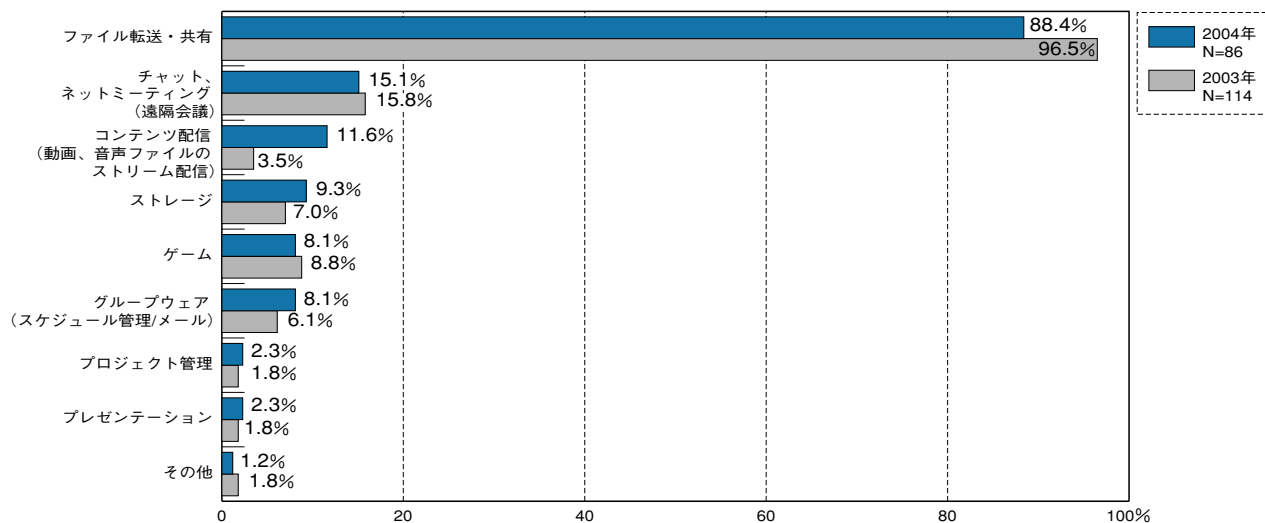


P2Pアプリケーションを認知している590サンプルに対して、その利用状況を2003年の結果と比較したグラフである。P2Pアプリケーションの存在は知ってはいるが実際に利用しているのは14.6%に過ぎない。頻繁にP2Pアプリケーションを利用しているのは大部分がブロードバンド接続利用者である。

P2P（ファイルシェアリング）

ブロードバンド化がP2Pのストリーミング利用を増やす

資料2-6-44 P2Pアプリケーションの用途（2003年-2004年）

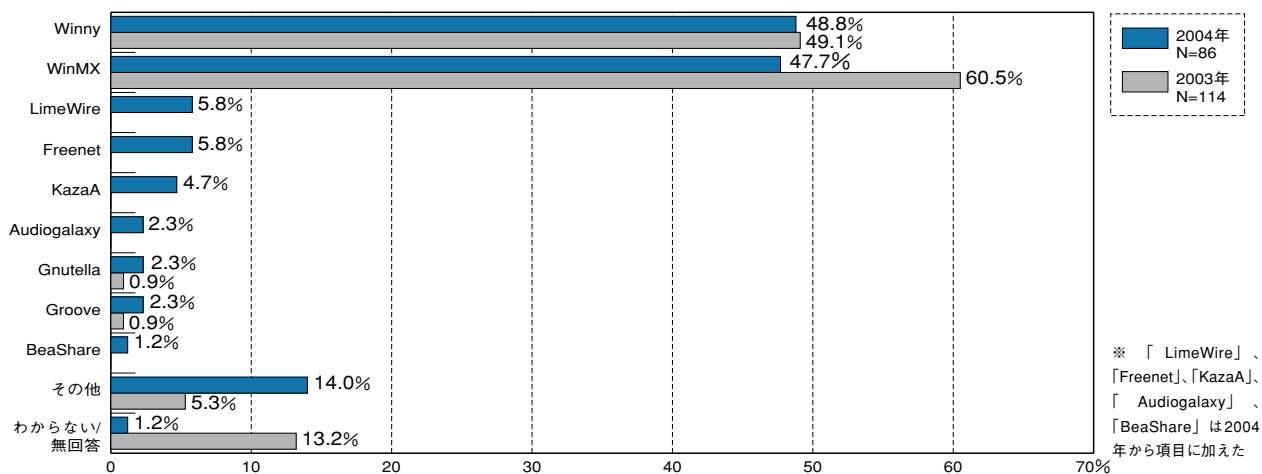


©Access Media/impress,2004

P2Pアプリケーションを利用している86サンプルのメイン用途は、「ファイル転送・共有」である。昨年の結果と比較すると「コンテンツ配信（動画、音声ファイルのストリーミング配信）」が11.6%で伸びている。ブロードバンドの普及により、ストリーミング配信を提供しているウェブサイトの増加に伴い、利用者も増えていると推測される。

ファイルシェアリングソフトはWinnyとWinMXが拮抗

資料2-6-45 利用しているファイルシェアリングソフト（2003年-2004年）



※ 「LimeWire」、
「Freenet」、「KazaA」、
「Audiogalaxy」、
「BeaShare」は2004
年から項目に加えた

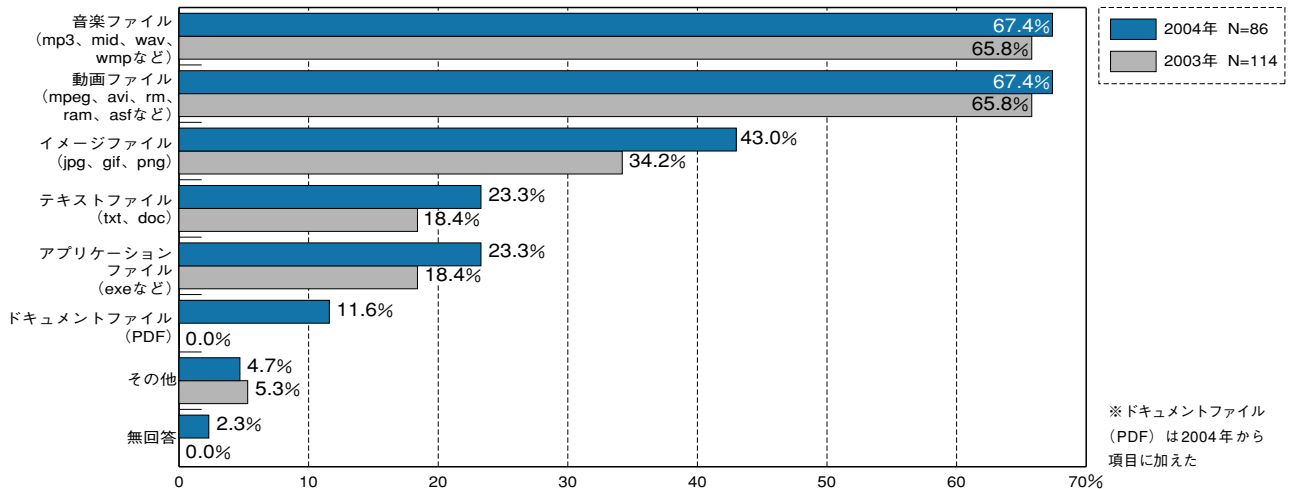
©Access Media/impress,2004

頻りに利用するファイルシェアリングソフトは、「Winny」と「WinMX」がほぼ同率で高い。昨年と比較すると、今年は様々な種類のファイルが紹介されているが、一般的には無料配布されているものが多い。しかしながら、コンテンツのやり取り等に関しては著作権侵害問題にも発展しかねないため、その用途には充分注意を払う警告が出されている。

P2P (ファイルシェアリング)

容易な閲覧環境が増やす、音楽/動画ファイルの共有・転送

資料2-6-46 P2Pアプリケーションで共有・転送しているファイルの種類 (2003年-2004年)

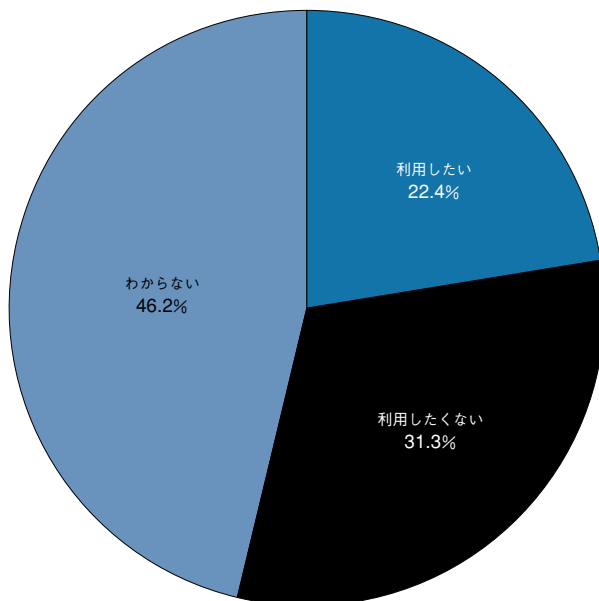


©Access Media/impress,2004

「音楽ファイル」、「動画ファイル」は同率で高く支持されている。この背景には、MP3プレイヤーの普及やブロードバンド化された環境によって動画が容易に閲覧可能となったことなどが考えられる。

今後のP2Pアプリケーション利用は多数が未定を表明

資料2-6-47 今後のP2Pアプリケーション利用意向 N=504



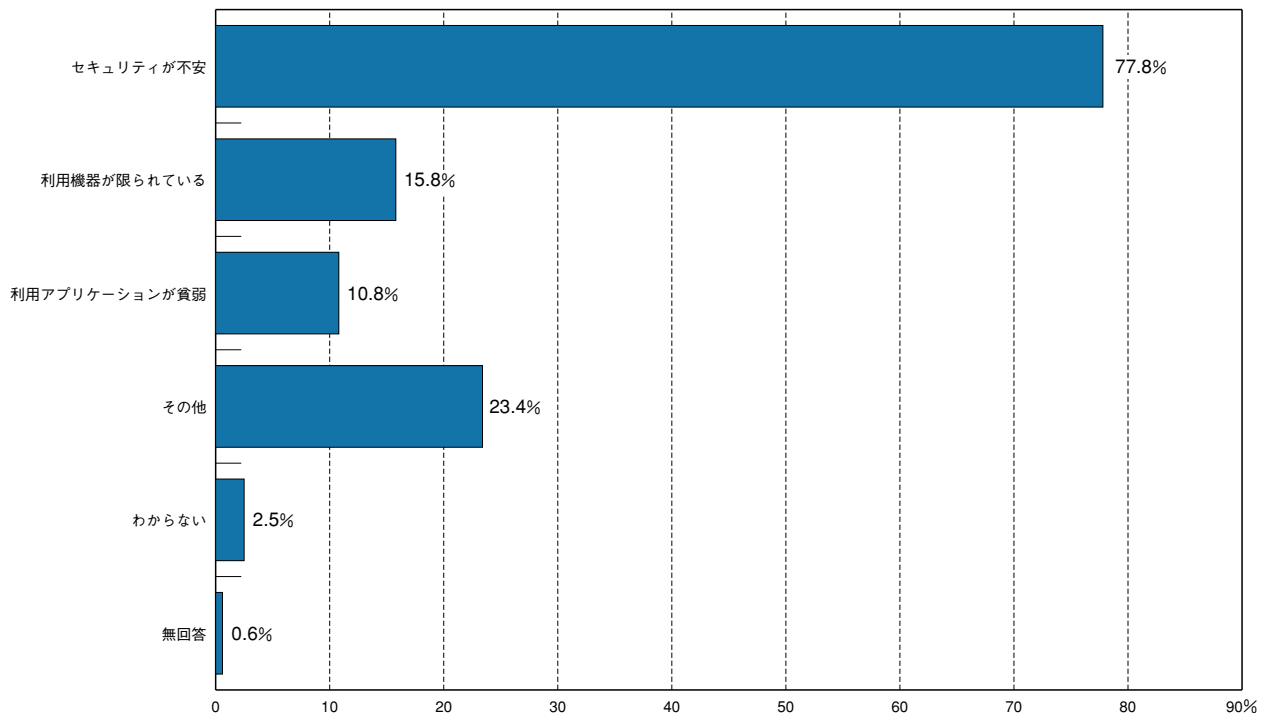
©Access Media/impress,2004

P2Pアプリケーションを認知しているが「ほとんど/まったく利用していない」対象者504サンプルに対して、今後の利用意向を聞いた結果である。P2Pの利用に関しては未定が多く、実際のところP2Pの利用シーンや使い方などを把握している人が少ないためではないかと推測される。今後、MP3プレイヤーやICレコーダーなどの普及により、そのニーズも出てくるのではないかと予測される。

P2P（ファイルシェアリング）

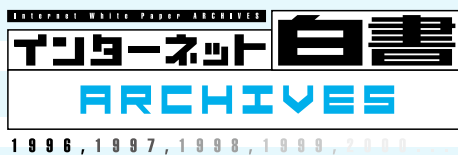
セキュリティの不安からP2Pアプリケーション利用をしないユーザーは77.8%

資料2-6-48 P2Pアプリケーションを利用したくない理由 N = 158



©Access Media/impress,2004

P2Pアプリケーション利用意向で「利用したくない」と回答した158サンプルに対して、その理由を聞いたグラフである。「セキュリティ」に関する不安がトップに挙げられ、ダウンロードする際の個人情報流出などに不安があると思われる。また「その他」（23.4%）では、「著作権侵害の問題」や「必要性がない」などの意見が挙げられている。



[インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D(初期は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ iwp-info@impress.co.jp